

本願寺第八代蓮如上人の三男である蓮鋼が、松岡（小松市）の地に庵を建て、後に子蓮慶と共に波佐谷へ移した。これが波佐谷松岡寺の始まりである。

室町時代の末期、長享二年（1488）に本願寺門徒が中心になり当時の加賀の守護富権政親を攻め亡ぼした。これが加賀の一一向一揆である。以後、天正八年（1580）織田信長の家臣柴田勝家に制圧されるまでの約百年間、「百姓の持ちたる国」として、民衆による自治が行われた。この一揆衆を率いていたのが三男蓮鈍（波佐谷・松岡寺）と四男蓮誓（山田・光教寺）。七男蓮悟（二俣・本泉寺）である。同時に、本願寺の門首の代行として、加賀の寺院・門徒も統率するほどの力を持つこととなつた。

やがて第十代証如上人の時代になり、越前の守護朝倉氏との争いによって、藤島の超勝寺と和田の本覚寺（大一揆）が越前を逃れ、加賀で拠点を持とうとした。これによつて松岡寺ら三ヶ寺（小一揆）との間に内紛が起ることとなる。

室町時代の末期、長享二年（1488）に本願寺門徒が中心になり当時の加賀の守護富権政親を攻め亡ぼした。これが加賀の一一向一揆である。以後、天正八年（1580）織田信長の家臣柴田勝家に制圧されるまでの約百年間、「百姓の持ちたる国」として、民衆による自治が行われた。この一揆衆を率いていたのが三男蓮鈍（波佐谷・松岡寺）と四男蓮誓（山田・光教寺）。七男蓮悟（二俣・本泉寺）である。同時に、本願寺の門首の代行として、加賀の寺院・門徒も統率するほどの力を持つこととなつた。

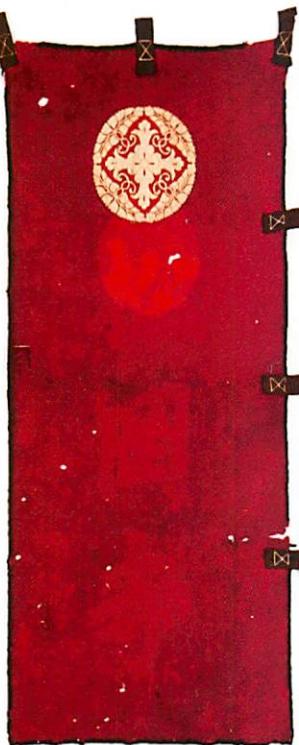
## 小寄りめぐり⑯ 苗代組

～波佐谷町と松岡寺～

一方、本願寺では門首の権力を強化する方策がとられた。このことは本願寺と加賀の三ヶ寺に摩擦が生じることとなる。そして享禄四年（1532）、大一揆方は本願寺の後ろ盾を得て松岡寺を破却する。これが享禄の錯乱である。

このあと蓮鈍一族は、山内（現在の鳥越）へ連れて行かれ、自害させられたと伝わっている。

また、まだ幼い蓮鈍の曾孫顕慶は、乳母に連れられ能登へ逃げのびた。そこで再建されたのが、松波の松岡寺である。



# 大寄およひ小寄こよひ

真宗大谷派  
小松教務所

〒923-0904  
小松市小馬出町26

Tel 0761-22-0555

発行者 長澤 秀豊

編集 小松教区教化委員会

ぐんちゅうご え い ほ う お ん こ う

## 郡中御影報恩講～なまびのほんこさん～

7月23日(日)午前9時

8:00～御影道中・勧帰寺出発～8:30本光寺

講師 伊藤 元 氏 (日豊教区徳蓮寺)

場所 本光寺 (小松市本折町)

# 御本尊は本山から お受けしましよう

(後半)

小松市圓光寺 大谷 制以知

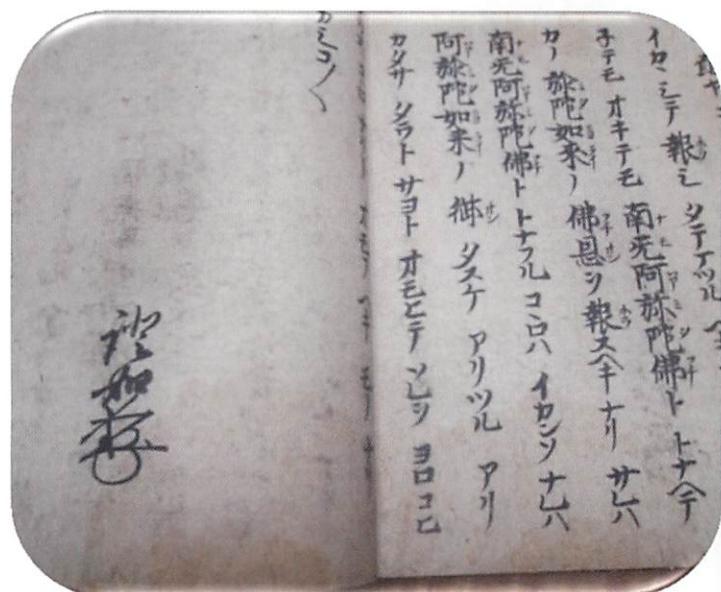
えることなど夢のまた夢で、手次の寺などに書き写してもらった小さな本尊を壁につるして参つていたと思われます。少しずつお内仏を構えるご門徒が増えてきましたが、その多くは質素な人のだつたようです。

このようにして本尊やその莊嚴、勤行形

式が定まつてきましたが、このころはその地

域の道場やお寺に集まつて朝夕のお勤めが行われていたようです。皆さんが耳にされる五十代や二百代という言葉は、蓮如上人時代の名残りで、本尊を受ける際の懇志の額が仏壇の大きさに転化したものです。本尊下付は門首しかできないことですから、少なからぬ懇志を必要とする本尊をご門徒一人ひとりが受けることは、もう少し時代を待たなければなりませんでした。

江戸時代となり経済が発展すると同時に、報恩講を道場で一緒に勤めていた門徒同行は、自宅でも本尊を迎へ報恩講を勤めたいとの欲求が高まつてきたようです。経済力を持った人々は、本山から本尊を受け仏壇を構えるようになります。しかし多くのご門徒は、本山から本尊を迎



本願寺第十代証如上人の花押入りの『御文』



達如上人の花押入りの脇掛と御本尊

ていたからです。またお内仏の形式が定まつたのも、このころのように思われます。「お内仏には、家の価格の半分をかけるものだ」という話を聞いたことがあります。そのようにしてまでお内仏を構え、本山から本尊を迎えられたのは、本当に尊いことに目覚め、自分のいのちを燃やし尽くして生きることのできる有り難さからであつたと思います。私たちの先祖が苦労しながら、お内仏を構え、本尊を本山からお迎えした意味を考えてみたいものです。

# 私にとつて宗祖とは

## 光玄寺 佐竹 融

さたけ とおる

私が親鸞聖人を宗祖として意識するようになったのはいつの頃であつたろうか。大谷派の寺院という環境で育ち、小さな頃から正信偈に触れる機会はあつた。しかしその頃は、正信偈のことも「キミヨームリヨー」という歌のようなものとしか感じていなかつた。

昨年末に境内の掃除をしていたところ、私の姉ともうすぐ二才になる甥っ子が遊びに来た。その頃の甥っ子は大人の真似事をして、言葉を喋るようになつており、なんでも「これなん(何)?」と聞いてきた。そして、その日も小さな箋を持って一緒になつて掃除をしていとこ、早速「これなん?」と私に聞いてきた。甥っ子の前には古い鬼瓦が置いてあつた。

そんな様子を見て私は、自分の小さい頃の「キミヨームリヨー」を思い出した。その頃は誰が書いたかも、何が書かれているかも分からなかつたが、私は正信偈を親に教わるがまま唱和していた。しかし、その「キミヨームリヨー」の

奥には、念仏の教えに出遇つた親鸞聖人の思いがあり、念仏の教えを伝えようとした人たちの願いがあつた。

甥っ子にとつても、「みて、ござう」は意味も中身も分からぬことだと思う。さらには私自身もここ最近

は鬼瓦を風景としてでしか認識していなかつた。しかし、目の前にしている鬼瓦は、私や、私の親が生まれる前から本堂の屋根として光玄寺を護つていた。その

事の敬意を込めて住職は「見て、ござる」と台座に刻んだのだろう。私は「この鬼瓦は、昔は屋根の上から、今はこの場所からこのお寺を見守つとるんやよ」と甥っ子に話しかけながら自分に言い聞かせた。何かが伝わるだけでは出遇いとはならないのだろう。何かが伝わり、そして伝えようとしたときに出会いとなる。私にとつて宗祖とは、「キミヨームリヨー」の奥で厳しくも優しくその出遇いに「気づけよ」と待つてくれている人ではないかと思っている。



小松教区仏教青年会  
会長を務めた佐竹氏

## Q & A

**Q** ご本尊はどこで求めたらいいですか?

**A**

お内仏の御本尊は、私たち真宗門徒にとってお念仏の根本道場である御本山真宗本廟（東本願寺）よりお受けします。これは御本尊が私たちの生活の場へ現れて下さり（影向くよう）、（いいます）家庭がそのままお念仏の道場になるということです。そして、どこまでも御本尊を中心に生活を営んでください。この御本尊の前でお念仏の教えに照らして語り合い、確かめ合つていてくださいといふ宗門全体の願い、お念仏してこれらた無数の人々の歴史の願いを代表して御本尊の御裏に御門首のお名前が記されているのです。（小松教区西照寺 日野賢之）



ご本尊の裏書き  
「本願寺釋達如（花押）  
方便法身尊形  
願主釋〇〇」

## ◇十二日講

日時 每月12日午前9時30分

会場 常磐会館（小松教務所）

講師 【7月】大垣 巧 氏

【8月】柿原 秀芳 氏

【9月】芳原 里詩 氏

## ◇日曜講座

日時 日曜日午前10時

【7月】2日・9日・16日・30日

【8月】6日・27日

【9月】3日・10日・17日

会場 常磐会館（小松教務所）

◇暁天講座◇朝食をご用意します

期日 8月1日～4日

時間 午前5時45分～7時30分

会場 1～3日 常磐会館（小松教務所）

4日 河田寺（小松市河田町）

講師 1日 熊本教区光行寺

2日 保々 貞量 氏

3日 西本 祐攝 氏

4日 福井教務所長

5日 五辻 信行 氏

6日 金沢教区淨土寺

7日 大窪 康充 氏

◇各種詳細につきましては  
小松教務所までお問い合わせください

## 【教区教化事業のご案内】



常念寺の歴史は蓮如上人吉崎御滞留時にさかのぼる。開基の川島權守（かわしまごんのかみ）は、上人の教化に遇い、一向無二の熱心な信者となり、「釋淨念」の法名を賜つた。やがて居住していた高堂に直参道場として常念寺が建てられた。

蓮如上人が吉崎を御退去される際、權守は若狭の小浜までお供を申し出たが、上人は權守の老体を案じ「そなたは七十餘りの老体なれば、これから故郷に帰り来て、聴聞の如く一向専念の称名を喜び、淨土の往生を期せよ。今生の別れはしばらくのことよ、やがて又淨土にて会うぞよ」と仰せになつたと記録されている。

## 常念寺

（小松市高堂町）

涙ながらに高堂に戻った權守であつたが、蓮如上人との再会を強く願つていた。河内の地でその思いを知つた上人は、ご自身の御寿像と『教行信証』（信卷・親鸞著）の御己証の文二幅を授けられた。この宝物は、毎年4月25日に勤められる「蓮如上人御忌」で拝観することができる。

現在住職である川島外之さんはその任に就いてから、境内の整備や本堂・庫裏の普請などの事業を行ってきたが、近年地域の過疎と高齢化が進み、御講などお参りが減り、将来に心配を抱えている。しかし、外之さんの次女のお嬢さんが入寺され、後継として学んでおられる。釋淨念の思いがまた一代引き継がれていくことをとしている。



蓮如上人御寿像と御己証の文二幅

## 編集後記

この度「大寄小寄り」の誌面が生まれ変わりました。デザイン様式をリニューアル、全ページカラー印刷となりました。これからも地域の御講を伝え、特集記事等誌面の工夫をして皆さんに関心をもつて読んでもらえる編集をしていきたいと思います。

(森本)